

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

28号

2017年3月10日



● 目 次 ●

公益信託「高知市まちづくりファンド」 2016年度 中間発表会

プレゼンテーション

- A 「学生まちづくり」コース P. 2
- B 「まちづくりはじめての一步」コース P. 3
- C 「まちづくり一歩前へ」コース P. 4

- 運営委員のコメント・退任のあいさつ P. 6
- 2016年度 中間発表会を終えて P. 7

- 公益信託「高知市まちづくりファンド」 P. 8
 - 2016年度（第14回）の予定
 - 2017年度（第15回）の予定
- 寄付のお願い



公益信託「高知市まちづくりファンド」 2016年度 中間発表会

2017年1月22日（日）公益信託「高知市まちづくりファンド」2016年度中間発表会を開催しました。応募団体・関係者あわせて47名が参加し、和やかな発表会となりました。※ 今年度、Dコースの応募はありませんでした。

1 プレゼンテーション

各団体持ち時間3分間の中で活動発表を行い、参加者は各事業について良いところ・質問・提案などを各自が付せんに書きました。



2 付せん貼りタイム

休憩時間に、各自が書いた付せんを団体（各事業）のシートに貼っていきました。



3 意見交流

運営委員が、貼られた付せんの内容を紹介。課題解決にむけたアイデア出し、意見交流を行いました。



A 「学生まちづくり」コース

GROUP
A 1

事業名：高知県の未来作る、地域防災リーダー育成プログラム

Kochi Leaders Program 実行委員会



東北研修では震災で被災したホテルなどを視察。高知に持ち帰り、今後のプログラムに反映していく

弊団体は、地域課題（防災）の現場から若者地域リーダーを育成する事を目的としている。そのため、「何かしたい大学生」と「課題の現場」をつなげ、大学生の新たな課題解決アクションの促進を行う。今回、「防災」をテーマに、課題解決に取り組むためのインプットを東北合宿、高知研修を通じて行った。東北研修では宮城県気仙沼市でNPO法人底上げにご協力頂き、高知研修では、須崎市危機管理部や室戸自主防災組織の方々にご協力を頂いた。そして、現在、本プログラムに参加した5名の大学生は、自主的にアクションプランを立案し動いている。私たちの大事にしている事は、若者が地域課題に対して、「自主性」を持って関わり、行動し、成長していく事である。

●Q&A

Q. 大学卒業後は活動にどう関わっていく？

A. 高知を離れる人もいるが、残る人もいるのでその人を中心にアドバイスなどをする。県外就職組も得意分野を活かした資金調達などのサポートはできる。

■参加者の声

- ・ 県内のさまざまな大学の大学生が参加しているのが良かった。
- ・ 地域、行政、学生（ボラ）の三者協働が良いと思いました。
- ・ 次への活動につながるのは大変そうですね。
- ・ 研修だけではなく地域へ入っていくべきではないか。

B 「まちづくりはじめの一步」コース

GROUP
B 1

事業名：下知地区有志による五台山での市民農園

下知愛のふるさと農園



震災時の食糧備蓄というスローガンのもと8名で活動を開始。予定を組んで活動を開始したが、自然の厳しさに直面した。8月の猛暑で水不足となり、メンバーが各々3Lの水を3~4本用意し、農園までの83段の階段を昇ることになった。急遽、予定外の水タンクが必要になり、申請予算の変更を連絡したが、9月に入ると長雨で水タンクは不要となった。耕してみると土が少なく20L入りの土を63袋購入。もとの土との混入作業、畝づくりに1ヵ月没頭。必要な鍬、バール、木槌を購入し、農園の柵作りや周りの草取り。雑草の成長を妨ぐ御座を敷き詰め、現在はタマネギ、ブロッコリー、エンドウ豆等、植え付けが完了した。あと半年、実りある事業に育てたい。

●Q&A

Q. 活動のPRはどのようにされていますか？

A. YouTubeにアップした活動報告を、ホームページ等でも紹介している。

Q. 地域にどう還元していくのか？収穫した野菜はどう利用しているのか？

A. 地元還元はもとより近隣の防災会にも支援物資として供給している。

■参加者の声

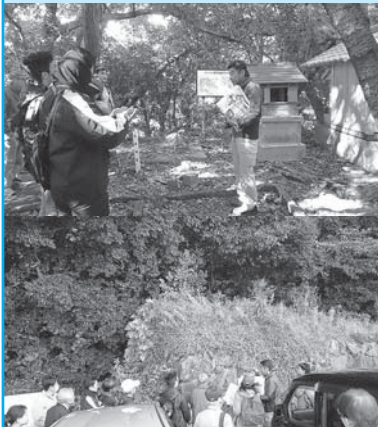
- ・寒い日も暑い日も本当に!!すばらしい。
- ・周辺のほかの地域からも参加できる点がよかった。
- ・子ども、小学校の遠足をかねて訪ねてほしいですね。



GROUP
B 2

事業名：浦戸城を中心とした浦戸・長浜地域の魅力発信事業

長宗我部ファンクラブ



長宗我部氏最後の居城であり、高知市の指定史跡となっている浦戸城の魅力を発信し、多くの方に知ってもらうことを目的とし、活動している。11月3日には現地で勉強会を開催し、7名の(うち3名地元関係者)参加があり、実際に城跡を歩いて遺構や、発掘調査時の写真を見ながら浦戸城の構造や歴史的背景、意義について学んだ。参加者からは理解が深まった、魅力的な城跡だったとの声があった。また、開催報告をSNSで発信したところ、次回開催時には参加したいとの声が上がった。今後浦戸城に関する説明パンフレットを作成し、タクシー会社に配布するとともに、地元の施設等に設置していただくこととする。

●Q&A

Q. 長宗我部に関する資料は少ないのでは？

A. 知られていないが、実は多い。

Q. SNSの効果は？

A. FacebookやTwitterなどで情報発信。いいね!の数は多いものの、参加者数が少ないのが現実…。

■参加者の声

- ・埋もれそうな歴史の魅力に光をあてる貴重な活動ですね。
- ・知らない観光資料で、新たな魅力になりそう。
- ・浦戸城を多くの市民に知らせる第一歩がんばって下さい。イベントにぜひ参加したい。

高知県立埋蔵文化財センター調査課長、吉成承三氏を講師に迎え、浦戸城址(坂本龍馬記念館敷地)勉強会を開催

GROUP
B 3

事業名：ジョン万次郎の功績を高知市民に浸透させる運動

国際ジョン万大河ドラマ化推進會



ジョン万次郎(中浜万次郎)が教授を務めていた開成館跡(高知市九反田)の史跡整備を行政他に働きかける手掛かりとするため、ジョン万次郎に関する知識を深めるべく、毎月定例役員会を開いています。またジョン万サミット(於:土佐清水市)や英語弁論大会他の催しにも会として参加し、行政や県内・外さらに海外の方々とも交流し、情報交換しました。今後は計画の中の事業(講演会開催他)も実施すべく準備中です。知名度の高い坂本龍馬の陰に隠れた存在から脱却させる方法を探ると共に、会の基幹目標「NHK大河ドラマ化」に関しても長期スパンに変更して取組を継続します。

●Q&A

Q. 「団体名が他の団体と混同される」具体的にはどういう事？

A. 名前が似ているほかの団体と間違えられることが多い。

Q. SNSで情報発信してはどうでしょう？

A. 高齢者ばかりの活動なので出来ていない。

■参加者の声

- ・高知市が誇る偉人を高知市民が団結して大河ドラマ化を図る活動は大変魅力あるものと感じました。「ドラマ化」楽しみにしています。
- ・FM番組でジョン万と開成館のつながりを知りました。活動を期待しています。
- ・土佐清水との連携を深めてぜひ実現して下さい。



C 「まちづくり一歩前へ」コース

GROUP
C 1

事業名：新旧が融合し、元気に彩り「栄える」まちづくり（助成3年目）

高知駅北サイト「栄える」TOWN 実行委員会



お月見のタベやクリスマスイベント、フリーマーケット（次回4月23日開催予定）を中心に参加者、来場者が増え年々盛り上がりを見せている。クリスマスイベントでは地域の消防団の皆さんが「100円ショップで買える防災グッズ」を紹介し、高知市小中学校PTA連合会の皆さんも出店者として参加してくれたことで、来年度に繋がる関わりが出来ている。子供も大人も楽しめる雰囲気づくりの効果か、各イベントではファミリーでの来場者が多い印象だった。子供からお年寄りまでが交流し「親子3世代プロジェクト」としての効果も少しずつ実感している。また、今後は中間発表会でのアドバイスも活かせるように、若い世代に限らず、幅広い世代で楽しめるような取組みを考えている。

●Q&A

Q. 来場者が増えてよかったです。何名ぐらいになっていますか？

A. 1年、2年、3年…と回を重ね、倍増しています。

Q. 運営側の体制が弱い。具体的には？

A. みんな働いているので全員参加ができない。その時に動ける人に声をかけている。

■参加者の声

- ・企業、消防団、PTA等様々な立場の方々が自分たちが住む地域で一同に集まるイベントは大変魅力的でした。
- ・地域に住む人以外とも交流が出来て楽しそう。自分も参加してみたいと思った。
- ・たくさんの年代層が楽しめる工夫がいいと思った。

GROUP
C 2

事業名：まちのしゃべり場「こころの温泉・井戸端わもん」（助成1年目）

特定非営利活動法人 井戸端わもん



市民が気軽に聞き合えるこころ温泉（居場所）「井戸端わもん」の場づくりを目指し、良き聞き手の育成と、聞き合いの場の提供を続けてきました。公民館やカフェなどでの聞き合い会、話の聞き方教室の開催を定期的に重ね、話を聞くことに熱心な参加者にも恵まれました。今後、いろんな地域の方とコラボレーションを重ね、気軽に聞き合える場づくりを重ねていきます。中間発表会では、参加団体から協力のお申し出もいただき、新たな可能性を見出しています。また、この事業を通じて作成したチラシのご縁で、新たな団体からも聞き方教室のご依頼をいただきました。これまでの活動を見直しながら、予定の広報活動を実行して当事業を円滑に進めたいと思います。

●Q&A

Q. ファンドの資金をどのように活用したのでしょうか？

A. おもに会場費。あとは広報に関する紙代や印刷代、文具代等にあてています。

Q. 話の聞き方教室の参加者は何名ぐらい？

A. 会場によって多いときで15人、少ないときで3~4人。リピーターも単発もいる。

■参加者の声

- ・一人で悩みを抱えている人は多いと思う。良き聞き上手が増えることによって救われる人も増えて、すばらしい活動だと思います。
- ・本当に話を聞いてほしい人はそんなに積極的に場所へ出向いていかない。そのような方に向けたことはできないだろうか。

GROUP
C 3

事業名：若者たちの活動を通して繋ぐ地域の輪。（助成3年目）

大津子ども会連合会



「町づくりフォーラム」(11月20日・大津ふれあいセンター)を開催。

若者たちが運営するKPC (Kide Play Creation) の行事として、お餅つきや凧作り・凧揚げを実施した。また、子どもたちの保護者や地域の人も参加しての子ども農園は、楽しい広場になっている。大きな事業として「町づくりフォーラム」を開催。子ども会活動を通して若者が育ち、町が活発になる、という日ごろの活動を通して見える私たちの町づくりについて発表。四国総合教育研究所長の横川遊亀先生のご指導で参加者の交流や意見交換を行った。同じく11月に指導者研修会として「ユースキャンパス2016」を室戸で開催。やさしくなろうネットワーク主宰の島村一夫さんを講師に国立室戸青少年自然の家で二日間、中高生以上を対象に自分を見つめる学習を行った。

●Q&A

Q. 活動の担い手、協力者は増えていますか？

A. 続けていってその中で出会って共感をしていただいて明日へ続くという方法を絶えず行っています。畑が世代を越えてつながる場でした。

■参加者の声

- ・地域のリーダーはなかなか醸成されにくい中、このように青年のうちから企画運営ができる場があるのは、喜ばしいことです。
- ・子どもたちが自らの地域で活動することは、地域への愛着や魅力を知る・育むきっかけにもつながり、大変意義ある事業だと感じました。
- ・子どもたちの親世代（30~40代）とのかかわりも必要だと思っています。



「ユースキャンパス2016」(11月26,27日・室戸青少年自然の家)の様子

GROUP
C 5

事業名：人と猫が共生できる街づくり～地域猫活動～（助成1年目）

高知地域猫の会



11月、普及に向けた啓発・広報活動として2日間に渡り地域猫セミナーを開催した。行政職員を対象とした第1回地域猫活動行政向講座～飼い主のいない猫対策～（参加人数40人、高知市後援）、一般向けの第1回高知地域猫セミナー（参加人数約100人、高知市後援）。会場アンケートには「自分の住み町でも取り組みたい」「大変有意義な活動だ」「また来年もセミナーに参加したい」との声が多く寄せられ、また地元新聞に掲載されるなど大きな反響があった。現在は、セミナーに参加した町会長から早速活動を始めたいと協力要請があり、12月より活動に着手し始めたところである。

●Q&A

Q. 必要とされる事が多そうですが、活動人数は足りていますか？

A. この活動は、高知市民34万人みなさんがボランティアという考えです。

Q. 町内で猫が増えたのですが、その時どのように対応すればよいですか？

A. まず保健所に連絡し、ボランティア等が支援に行く。

里親探しをしたり、地域猫を取り入れるなど、そのときどきで対応できる。

■参加者の声

- ・“三者協働”で具体的に地域での活動につながったのはとてもよいですね。
- ・猫好きで興味や関心があってもチラシを見たことがありません。情報が一部にしか届いてないように思います。広い範囲でお知らせできるよう工夫しては？



GROUP
C 6

事業名：アート×地域。まつり・キャンプ・減災プログラム（助成1年目）

シアター TACOGURA



劇団というアート集団が地域課題と向き合い、われわれの文化資源が地域課題解決の一助となるかにトライしている。今年は「地域力の再組成と劇団（アートゾーン）の認知と信頼の醸成」を目的とした活動を重点的に行う。まずはアートゾーンでの「夏祭り」昨年地域からの依頼によって夏祭りを復活させた、ミュージアム、土佐バル、地域の子ども会、とつながり、参加型企画の多いアートな夏祭りとして充実させた。また「子どものための12月演劇公演」シリーズで、「ご近所ちびっこ内覧会」を設定し多くの招待親子が鑑賞した。今後、「減災」という地域課題に具体的に向かい合うため、対災害学習をていねいに積み重ね、地域住民としてアート集団であるわれわれに何ができるのかを模索していきたい。

●Q&A

Q. 社会課題との距離の保ち方への「迷い」とは具体的にはどういう事？

A. 様々な社会課題にすべて対応はできないし、する必要があるか疑問である。その道の専門家ではない私たちがアート集団だからこそできること、すべきことは何だろうと模索中である。

■参加者の声

- ・地域と連携しているところがベストです。
- ・地域の中に劇団があるっていうのは夢がありますね。子どもの夢を育てて下さい。
- ・瀬戸内国際芸術祭のようなアートで地域が盛り上がるようなしなかけをしてほしい。



— 2016年度公益信託高知市まちづくりファンド中間発表会アンケートから —



- ・それぞれの分野で活動されている方のお話を聞く機会になり、刺激を受けました。
- ・3年連続の団体の「卒業」後の活動が気になります。
- ・自分たちの活動のPRと団体名を知ってもらうきっかけとなりました。
- ・参加者がイキイキとした表情で発表している。やってきた事、やっている事を表現出来る場があるのは素晴らしいです。もっとこの活動が世間に広がれば良いと思います。
- ・各団体の活動報告を聞かせて頂き、今後自分たちの地域の活動を継続して行くためにも参考になりました。高知をより良くしていくために、たくさんの方が行動していて頼もしく感じます。
- ・ここに来ると活動の見直しができます。また今日から頑張りたいと思います。何より楽しかった。
- ・他の団体さんの発表を聞いてつながることが出来るんじゃないか、点と点が線になるような発見などがあり、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。高知もっと頑張れる気がします!!

運営委員のコメント



運営委員長

増田 和剛
高知中学高等学校
教諭

団体の活動が「活動」だけで終わることなく、活動から見えてくる反応や目指す方向性を確認ができる絶好の機会だと思います。この機会に、活動を客観的に見ていく広い視野と新たな人との出会いを通じて、お互いが学び、育て合う関係作りも併せて行うことにより活動団体を成長させていきます。



副運営委員長

堀 洋子
公益社団法人
高知県建築士会

今回の中間発表で地域コミュニティの再生に明るい萌しを感じました。高知駅北サイト「栄える」さんの駅北公園、シアターTAKOGURAさんの藁エミュージアムなど開かれた場で地域外の人が風となり異世代、地域住民、様々な地域活動団体のハブ的な存在になり、まちづくりを再生させて行く様に思います。



運営委員

石川 貴洋
認定特定非営利活動法人
環境の杜こうち

活動休眠中という団体が無かったのは何より。うまく進めて手応えを得た団体は、共感者を増やし、共に活動する仲間づくりにも注力を。うまく進めず模索中の団体は、当初の目標と「いまできること」をつなぎ直して、活動内容やスケジュールの組直しを。少しずつでも前進しましょう。



運営委員

片岡 照敏
社会福祉法人てくとこ会
自立訓練施設
てく・とこ・せと

現時点で、今回中間発表をされた9グループとも、昨夏以来取り組まれている助成事業を概ね順調に熟されていると思います。発表会での意見交流の中から得られたヒントやアイデアを糧に、残り5か月余りの間で、ぜひ当初の計画をわずかでも上回る成果達成を期待しています。



運営委員

三谷 英子
学校法人三谷学園
RKC調理製菓専門学校

計画の段階からいざ実践となると、予期せぬトラブルは付き物で、なかなか思うように進まないものです。他団体の報告を聞いて、参考になることが沢山あったのではないのでしょうか。見返りを求めず、健気がんばる皆様の活動が幾重にも重なって、本当に住みやすい高知市になるのだと実感しました。



運営委員

宮地 貴嗣
ラ・ヴィータ
宮地電機株式会社

高知市を良くしようと事業に取り組んでいる各団体の中間報告を聞くことができました。それぞれの報告を一緒に聞き、意見、質問を活発にいただき、ありがとうございます。助成金を使うだけでなく、助成団体がお互いに協力して事業を行い、成果が出ることを楽しみにしています。



運営委員

山中 雅子
NPO法人
アテラーノ旭

運営委員になって初めての中間発表会でした。どの団体も大変苦労しながらも取り組みをしている事に感心しました。五台山の農園づくりの水の苦労や、高知駅北サイトのまちづくりは地域の交流の輪が広がりその取組が定着しつつある様子、人と猫が共生できる地域猫の取組み。それぞれが市民の目線で地域の課題に努力されていました。今後も各々の活動に期待し、私も学んでいきたいと思っています。

退任のあいさつ



運営委員

河渕 健 高知大学人文学部

この度、運営委員を退任させていただき、河渕です。運営委員をさせて頂いてから、早くも二年が経ち、あっという間だったというのが今の正直な印象です。この二年間で、数々の団体の皆様の発表を見てきました。どれも素晴らしかったですし、何より、毎回の発表が、前回より良くなり、事業の内容に明確な進歩がみられて、毎回の発表会が楽しみでした。これから、まちづくりファンドに直接的には関わることはありませんが、今まで参加された団体の皆様、陰ながら応援しております。最後に、お世話になった運営委員の皆様、事務局の皆様、本当に有難うございました。

※ 四宮 成晴 運営委員は都合により欠席されました。

二〇一六年度 中間発表会を終えて

運営委員長 増田和剛
(高知中学高等学校教諭)

今年で、14回目を数える中間発表会は、単に活動を発表するだけではなく、活動団体にとって活動視野を広げるきっかけとなり、後半へのモチベーションを高めていく、貴重な意見を共有できる時間となりました。

まちづくりファン드를運営していく中で、いつも考えることは、「まちづくり」の定義です。「どこまでの活動がまちづくりなのか?」「まちづくり」という響きが、格好良くも聞こえますが、輪郭がはつきりせずぼやけているところもあり、一般の方には非常にわかりづらい言葉であると感じています。そこで、活動を明確に伝えられるキーワードが活動の中に反映されているのかどうかというポイントに絞って、助成団体の活動についてまとめておきたいと思います。まちづくりの活動の認知度を上げるためにも、わかりやすいキーワードが非常に重要です。さらに活動団体が活動を継続していくための方向として、活動内容を具現化していく工夫も必要となってきます。

各団体の活動報告から見えるまちづくりの「キーワード」

- ① Kochi Leaders Program 実行委員会は企業共生の目線で取り組みを考え、**人づくり**を大切にしている。
- ② 下知愛のふるさと農園は自ら汗をかき、自分たちの地域で活動を考えていく、**地元力**が大切である。
- ③ 長宗我部ファンクラブは歴史という非常に見

えにくいものを見る化し、伝えていくこと。

- ④ 国際ジョン万次郎大河ドラマ推進会は**高知市のファン**で助成をされているということを大事に活動指針にそって活動を展開していく。

- ⑤ 高知駅北サイト「栄える」TOWN実行委員会は**世代を越えた取り組み**と協力団体を増やしていくながら活動を展開していく。

- ⑥ 井戸端わもんは、地域と人をつなげ、関係性を高めながら**地域の居場所作り**を目指す。

- ⑦ 大津子ども会連合会は、**若者たちによる会議の定例化**により、目指す方向が明確になった。

- ⑧ 高知地域猫の会は、活動している内容と、認知度を考えたときに、ぜひ行政が主導で行い、団体を支えながら、**地域と団体と行政の三者共同の活動**を目指していく。

- ⑨ シアターTACOGURAの活動は、演劇を通じて**地域を巻き込み、人を巻き込む力**。劇団自体が地域住民であるという考え方がとても斬新である。

以上のように、それぞれの活動におけるキーワードは、その活動の目指す方向性やベクトルをあらわしていくためにも重要です。また、活動団体が育つためにも互いが学び、互いが育っていく関係作りを基軸にし据えることで、目指す方向性が見えてくるものです。また、活動のイメージを膨らませるためには、最終着地点を持つことです。活

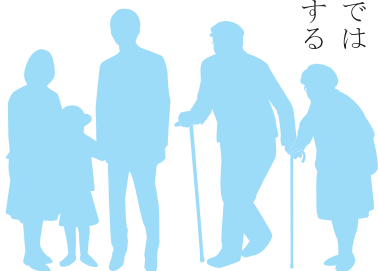
動しているからいいのではなく、活動がどのようなになっていくのかというビジョンを描きつつ取り組まなければなりません。そのためにもイメージ力と、それを発信する力、そしてその発信したものを吸収していく力も大事になります。

そして、活動の視点を変えることで、活動の見え方が変わるものです。これも非常に大事なことです。同じ視点にたてばみんなが一定の見え方ができるようになり、結果が生まれやすくなります。例えば、大人が子ども視点に立つことにより見え方が違ったり、新たな発見があったりします。活動を継続していく際には、時々視点を変えて活動を客観的に見ていくことも大切です。このまちづくりファン

ドで出会った団体にとって連携はとても重要です。お互いが関わることによって、活動に変化が現れるかもしれません。

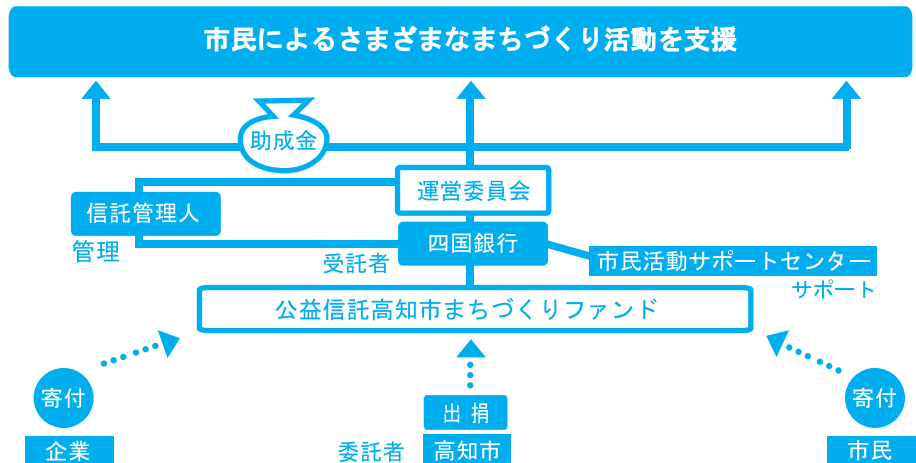
活動を通じて一番必要な事は、地域の大人が地域の若者や子どもたちの育成に関わることです。また、その活動をサポートしてくれるおじいちゃん、おばあちゃんたちの存在も重要です。今、非常に薄くなってきた連帯関係が

地域のなかでも大事になるのではないかと思います。人が育成するには時間もかかりますが、いろんな活動をする中で人は着実に育つてくると思います。そして、その地域で育った人が地域に関わることで地域の輪が広がっていく町づくりであってほしいと願っています。



公益信託「高知市まちづくりファンド」

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき高知市を住みよいまち、豊かな地域社会にするために行う、高知市民の自主的なまちづくりを支援しています。これまで14回の助成事業を行い、約100グループに活用していただいています。これから多くの方がまちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしていきます。



助成コース紹介

A：「学生まちづくり」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない学生団体の活動を支援します。構成員のうち3名以上が18歳以上の学生であること。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

B：「まちづくりはじめの一步」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

C：「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。1事業3回まで助成を受けることができます。

助成金額 上限30万円

審査方法 公開審査会で活動内容の発表をしていただきその場で助成先を決定します。

D：「まちづくり拠点整備」コース

まちづくりの活動拠点を整備する事業を支援します。

助成金額 上限100万円

審査方法 公開審査会で活動内容の発表をしていただきその場で助成先を決定します。

高知市市民活動サポートセンター

市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。「認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が運営を担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

新設

E：「まちづくりたまご」コース

事前の学習など、企画の準備・計画をおこなうことに対して支援します。

助成金額 上限3万円

※Eコースの応募受付は8月1日からを予定しています。

● まちづくりファンドは皆様のまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐（しゅつえん）された基金を、毎年取り崩しながら助成しています。少しでも長く、市民のまちづくり活動に活かされるよう、多くの皆さまのご寄付をお願いいたします。

寄付に関するお問い合わせ・お申し込みは、
下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行 個人サポート部 信託担当
TEL. 088-871-2024 (直通) 〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

■ 2016年度(第14回)の予定

最終発表会 7月22日(土)

※会場未定 詳細は日程が近くなってから下記にお問合せ下さい。

■ 2017年度(第15回)の予定

A・B・C・Dコース共通

＜応募受付＞

4月17日(月)～6月23日(金)

事前相談が必須となります。6月16日(金)までにご連絡の上、お越してください。

公開審査会 7月23日(日)

※会場未定 詳細は日程が近くなってから下記にお問合せ下さい。

発行・お問い合わせ先 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43

高知市たかじょう庁舎2階

TEL. 088-820-1540 FAX. 088-820-1665

E-mail: info@shiminkaigi.org URL http://www.kochi-saposen.net/

応募締切
6/23
(金)